

事務事業チェックシート

事務事業No 701 事業名 真舟芸術振興基金事業

[事業基本情報]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	4	文化・スポーツの振興
施策	2	芸術・文化の振興
基本方針	1	芸術・文化活動への支援

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		文化振興費	
	大事業		文化振興事業	
事項		真舟芸術振興基金事業		

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	～		
事業実施の根拠法令	和歌山市真舟芸術振興基金条例		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	文化振興課	有本 光博(435-1194)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か） 若手芸術家の育成や伝統文化の承継を目的とする。	事業内容 ・書道講習会事業 著名な書道家の指導により、「かな書道」を正しく理解し、表現力や創造力を培うことを目的とした講習会を開催し、その成果を展覧会の形で発表する事業 ・若手芸術家育成事業 和歌山市の芸術文化振興と若手芸術家の育成をはかる事業 ・子ども和太鼓ワークショップ事業 子ども達に和太鼓の鑑賞や実演する機会を提供することで、日本の伝統文化の継承等を図る事業				
	実施内容	平成25年度 書道講習会 夏期 8月17日～18日 受講者数 52名 秋期 11月23日 受講者数 9名 和太鼓ワークショップ 市内小学校6校にて実施 参加者 509名 若手芸術家支援事業 3名	平成26年度 書道講習会 秋期 11月23、24日 受講者数 21名 和太鼓ワークショップ 市内小学校4校にて実施 参加者数 399名 若手芸術家支援事業 1名	平成27年度 書道講習会 夏期 8月15日～16日 受講者数 未定 秋期 11月15日 受講者数 未定 書道展覧会 12月23日～1月7日 和太鼓ワークショップ 市内小学校5校にて実施 参加者 未定 若手芸術家支援事業 未定	平成28年度 ・書道講習会 ・和太鼓ワークショップ ・若手芸術家支援事業	平成29年度 ・書道講習会 ・和太鼓ワークショップ ・若手芸術家支援事業

2 事業コスト

事業費等	千円	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費		8,384	6,770	9,000	5,309	8,382		8,382		8,382	
伸び率 (%)		-	-	6.2%		-5.9%		0.0%		0.0%	
人件費	常勤職員	3,537	3,661	3,641	3,575	3,575		3,575		3,575	
	非常勤職員	1,257	1,005	1,004	936	936		936		936	
	小計	4,794	4,666	4,645	4,511	4,511		4,511		4,511	
国庫支出金											
県支出金											
市債											
その他		8,384	6,770	8,907	5,309	8,382		8,382		8,382	
一般財源(税等)											
所要人数	常勤職員	0.48	0.49	0.48	0.48	0.48		0.48		0.48	
	非常勤職員	0.58	0.48	0.48	0.48	0.48		0.48		0.48	
主な予算内訳		非常勤報酬 1,668千円		報償金 1,700千円		子ども和太鼓ワークショップ開催委託料 1,390千円					

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	講習会等開催数	年度目標値					7	7	7	7
実績値					8	5				
単位		回	全体目標値	35	全体目標達成度	37.1%	年度別達成度	114.2%	71.4%	
年度目標値										
講習会等参加者数	年度目標値					400	400	400	400	400
	実績値					570	420			
	単位	人	全体目標値	2,000	全体目標達成度	49.5%	年度別達成度	142.5%	100.5%	
	年度目標値									
実績値										
年度別達成度										

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	和歌山市出身の書道家、故山本真舟氏の遺志により作られた「真舟基金」を活用し、平成18年度にスタートした事業である。各事業において成果が表れており、今後益々の充実を図らなければならない。
「見直し」 「改善」案	講習会の指導及び額数の環境を維持し、展覧会に出品する作品制作に向けた取り組み及び来場者の増加を図る。 和太鼓においては市内小学校をほぼ一巡してきた中、一学校生徒に対し集中的な実技指導を行い更なる伝統技術の育成を図れるよう取り組む。 若手芸術家について事業費の支援を行っているが、その対象者の知名度や集客力の向上ができるよう、更なる広報の強化と芸術家の協力、競演等を推進していく。